東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2006年10月27日

浪 費

親愛なるムスリムの皆様。消費物資は、一般的に必要不可欠なもの、快適さや容易さをもたらすもの、ぜいたくであるものの３つに分類することができます。イスラームによれば、不可欠な消費とは、宗教、知性、財産、次世代といったような個人・集団の存在を維持するために欠かせない消費を意味します。従ってこれらの消費においては個人・集団の利益が考慮され、集団に害を及ぼすものは禁じられています。快適さや容易さをもたらす消費とは、人の暮らしが困難なく送られるために必要なもので、人を物質的、精神的に楽にするものです。

イスラームで認められていない、ハラームである消費とは、不可欠なものではなく、快適さや容易さをもたらすものでもなく、より見せかけ的で他人より優位に立ちたいといった欲望のような、自己中心的感情や熱望が煽る消費です。この種の行為は、人をアッラーへの敬意や結びつきから遠ざけ、それによって社会的、精神的なやすらぎの欠如をもたらすものであるからです。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。何かを消費する際、無視することができないのが、浪費という点です。贅沢と見なされるものを使用することが浪費であるのと同様、ハラールであるものを必要以上に費やすこともまた、浪費であり、ハラームです。裕福さは恵みであり、与えられた可能性であると同様に、試験の要素でもあるのです。私達の教えでは、必要とするものが適度に費やされること、余分なものはそれを持たない人の為に提供することが勧められています。これに対し、自分に十分な恵みが与えられているにも関わらず隣人が貧困のうちに生きているのを傍観しているのは不適切です。また現代においては、消費の狂気さに過度に影響を受け、それによって不可欠なものを費やすことすらできず、借金を重ねる人もいます。

狂気的な消費がその速度と濃度を増してきている社会においては、この世とあの世のバランスが崩れます。そして消費に限度を与えるべき道徳的価値、尊いものが完全に失われるのです。結果として、一方で人の内面世界が困窮したものとなり、また一方で虚構の競い合いが認められるようになった外的世界も、また戦いの場のような様相となるのです。

ムスリムの皆様。私達が確かに目撃している神のバランスを自分達の為の見本とし、あらゆる過度さや浪費から遠ざかりましょう。私達が手にした恵みをどこでどのように費やしたか、ということの勘定を問われる日が必ず来るのだということを、忘れてはいけないのです。